令和3年度 親子ふれあい事業

福岡市PTA協議会では、「家庭の教育向上」をめざし、子どもたちのさらなる健全育成と家族のふれあいを深めることをねらいとして、「親子ふれあい事業」を毎年実施しています。

今年度の親子ふれあい事業は２本立て。コロナ禍でも「親子で楽しめることを」との思いから、フォトコンテストとオンラインでの音楽配信を行いました。

「家族ふれあいフォトコンテスト」では東京2020オリンピック・パラリンピックのキャラクター（ミライトワ・ソメイティ）をデザインされた谷口亮氏を審査委員長にお迎えし、全89作品の中から入賞作品を選んでいただきました。たくさんのご応募ありがとうございました。

家族ふれあいフォトコンテスト

★ 最優秀賞 ★

タイトル　そばにいるよ

エピソード　祖父母の家で両親を後ろからこそっととりました。ここにいると祖父母ともつながっているような気がします。

谷口氏より　写真が、とてもきれいだなというのが第一印象です。お子さんを撮っているのはたくさんありましたが、両親を祖父母の家で撮影しているところにストーリー性を感じました。

谷口　亮氏　総評

ご応募いただいた皆さんの作品を拝見した第一印象は、どの作品も楽しそうに撮影されているなと思いました。

いろいろな切り口で撮られていて、審査をしていて面白かったです。

審査の際、写真を通して情景が伝わってくるもの、受け手側の気持ちに変化が生まれるものを最終的に選びました。

★ 優秀賞 ★

タイトル　3兄弟の夏のある日

エピソード　衝突ばかりの3兄弟ですが、海へ行くと必ず、お互いを気にかけ遊んでくれます。そんな様子を写しました。

谷口氏より　とても印象的な作品で、遅くまで楽しく遊んでいるんだろうなと想像させてくれました。

★ 優秀賞 ★

タイトル　大好きだよ

エピソード　単身赴任で離れ離れの生活。パパのことが大好きな娘の、パパに会えた時の笑顔は最高に輝いています。

谷口氏より　二人ともとてもいい笑顔をしていますね。ストーリー性も感じられ、切り取った写真の前後が伝わってきました。

★ 特別賞 ★

タイトル　新しい趣味

エピソード　コロナで外出できなくなった子供たちが見つけた新しい趣味が、折り紙。広げてみたらフレームに収まらない。

谷口氏より　コロナ禍でのお子さんたちの考えが作品としてたくさん溢れているようで、構図がとても面白いなと思いました。

★ 特別賞 ★

タイトル　おうち夏まつり2021

エピソード　しゃてきがたのしかったです。お手伝いをしてお金をためました。

谷口氏より　造りこまれているところが自然な感じとは真逆でいいですね。家族みんなで細かい所にもこだわって出来上がった作品だと思いました。

★ 特別賞 ★

タイトル　兄妹三段重ね

エピソード　ソファで寝っころがってると弟がクッションを持って上に乗り、それに続いて妹が。あつい3密です。

谷口氏より　上の二人の表情がとても自然で、お兄ちゃんが嫌がっているわけでもない何とも言えない表情をしていて、ほほえましいなと思いました。

〔谷口 亮氏〕
1974年生まれ。福岡市出身・在住のイラストレーター・キャラクターデザイナー。
東京2020オリンピック・パラリンピック公式マスコットキャラクターをデザイン。

楽器うんちく学@Home

8月20日　オンライン配信

教育と楽しみを兼ねた、珍しい楽器のうんちく＆演奏が聴ける音楽イベントを福岡市の児童・生徒および保護者・教職員を対象に8月20日にライブ配信にて行いました。

当日は、福岡で音楽を広める活動をされている団体「ふくおか音楽村」によるプロデュースで、普段触れる機会の少ない貴重な楽器をプロ奏者の方々よりご紹介いただきました。

それぞれのソロ、そしてコラボレーションによる演奏は、夏の強い日差しの中、映像を通して、異国の風が吹いたような素敵なひと時となりました。

髙野 志映氏
MC

和田名保子氏
オカリナ・ケーナ奏者
旋律作家

太田 耕平氏
リュート奏者

川波 幸恵氏
バンドネオン奏者

岩崎 大輔氏
ピアニスト

発行所
福岡市早良区百道3丁目10-1
福岡市教育センター2階
福岡市PTA協議会
発行人
会長 岡村耕二
広報委員会

福岡市PTA協議会
ホームページ
http://www.fukuokacity-pta.jp
福岡市PTA　検索

印刷（株）西日本新聞印刷

7月 早寝 早起き 朝ごはん 啓発講演会

主催：福岡市教育委員会・福岡市PTA協議会
令和3年7/6～9、9/3～6　オンデマンド配信

小児の睡眠の重要性

今回は、日本睡眠学会専門医でもある、福岡浦添クリニック院長の山口祐司氏にご講演いただきました。

山口祐司氏のご紹介

福岡浦添クリニック院長山口祐司氏は、日本睡眠学会専門医として睡眠障がいに対して「継続・集中・徹底」をモットーに長年にわたり診療を継続。「福岡の相談できる専門医」「優秀臨床専門医 doctor of doctors network」に選出、睡眠障がいについての著書も執筆され「睡眠障がい」に対して常に向き合っておられます。

◇ より良く眠ることは ◇

講演会では「睡眠障がいとは？」、眠りの質「ノンレム睡眠」「レム睡眠」の違いや年齢によって変化する睡眠パターン、スマホやタブレットの光が眠りを妨げる話など、様々な症例や過去の事例などをもとにお話をしてくださいました。昔から「寝る子は育つ」と言われますが、特に睡眠が記憶や学習に関係していることや、睡眠によるスポーツのパフォーマンスの違いなどは子どもたちに直結する興味深い内容でした。今回の視聴で「より良く眠ることはより良く生きること」という言葉に感銘を受けました。

今回はオンデマンド配信での視聴となりましたが、興味深い内容が多く、機会があれば会場で拝聴して質問してみたいと思いました。

10月 第一回「学ビバ!!FUKUOKA」2021 福岡市大会 ～PTAとしての学び場～

《主　催》三P協連絡協議会〔福岡県PTA連合会・(一社)北九州市PTA協議会・福岡市PTA協議会〕
《主　幹》福岡市PTA協議会　《後　援》福岡県教育委員会・北九州市教育委員会・福岡市教育委員会
《開催日》令和3年10月23日(土)　《会　場》アクロス福岡イベントホール

基調提案
○「子どもの非行防止は、大人の責任」が意味するもの
○「STOP・ザ・非行ふくおか」から「学ビバ!!FUKUOKA」への継続・発展へ

平成17年度より14回にわたって開催された「STOP・ザ・非行ふくおか」が今年度より「学ビバ!!FUKUOKA」と名称を変え、ハイブリット方式にて開催されました。

「学び場」とは、「こうありたい自分になること、自己実現(学び)」、「家庭、学校、地域を表す(場)」の造語で「子どもと保護者が共に生涯にわたって学び続ける生涯学習」を目的としています。

トークセッション　トークテーマ：**「PTAとしての学び場とは」**

登壇者各々の立場においての意見交換が行われました。

[MC]櫻井浩二氏(RKB毎日放送アナウンサー)
[保護者代表]力丸美和代氏、仲西綾香氏
[地域代表]日髙政治氏
[教職員代表]重枝一郎氏(福岡女学院中高校 校長)

櫻井氏　力丸氏　仲西氏　日髙氏　重枝氏

1. 子育てでの成功例、失敗例
保護者としてどのように子どもと向き合ってきたか。自分自身の生き方について。
・子どもに降りかかる困難を取り除くのではなく、それを乗り越える力を付けさせることが親の使命。
・圧倒的なものはなくとも、そこそこのものがあればOK。
・子どもにとっての縁(友達、地域、先生)を大切に。

2. 子どもの成長にとっての環境と家庭・学校・地域の役割とは？
コミュニティの情報交換の場の充実は？
・現代は地域との関係の希薄さを感じる。
・子どもが外の世界(友達、学校、地域)とつながる力が必要。
・先生、親との縦の関係、友達との横の関係に比べ、地域の方との斜めの関係は子どもにとって大きな影響を与える存在。腑に落ちる教えを下さる。

サンピービーバーズ名称発表！！

トークセッションに先立ち、大会マスコットのサンピービーバーズの名称が、北九州市の花「ひまわり」をイメージした黄色の「キタキューちゃん」、福岡県の花「梅」をイメージした赤の「けんピー」、福岡市の「海」をイメージした青の「シーちゃん」と発表されました。

3. 生涯学習の観点から保護者自らが「学ぶ」「生きる」「感性を磨く」とは？
子育てを通じて自分の成長を感じることとは？
・それぞれの立場で見え方が変わる。
・スランプからの脱出法は誰かの為に何かをする事。
・保護者が先生を敬うことが大切。親の姿を子どもは見ている。

4. 「学び場」としてのPTAの存在やあるべき姿とは？
教職員との関係性、PTAは必要？、離脱問題、令和のPTAとは
・PTAの利点はつながりが増える事。
・地域性に合わせ、実情に応じたPTA組織、運営を臨機応変に。
・やらされるは×、主体的に動く気持ちが必要。
・お互いが見えていることを言葉にして伝える。

予測不可能で複雑混迷化する状況が続く中、子どもを持つ親としてあるべき姿、地域で生活する住民として心掛けるべきこと等、たくさんの学びのヒントをいただいた「学び場」でした。

6月 令和3年度 PTA研修講座

令和3年6月23日

令和３年６月23日、各区で行っておりました「PTA研修講座」、今年度は全市一斉オンライン配信という形で開催しました。前回のふようでもお伝えした活動ですが、この度、二部でお話を頂戴した福岡市教育委員会 家庭教育支援係 小﨑俊司氏より、内容を振り返っていただきましたので、ここでご紹介させていただきます。

視聴者数　1,407名

人権とは、人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利とされています。

しかし、残念ながら社会の中には、差別や偏見があり人権を脅かすことがあります。

差別と偏見をつくりだすものを新型コロナウィルス感染症で例えてみると、一つは、新型コロナウィルスが未知のウィルスであるという不安です。それは、「相手に対する認識不足」と言い換えることもできます。

もうひとつは、「自分は、決してかからない。」という考えです。これは、一方的に相手に対して線を引いてしまう当事者意識の欠如だと考えます。

相手に対する認識不足と当事者意識の欠如に陥らないためには、相手の立場をよく知り、理解することが必要になります。研修会等で「人権について知る、学ぶ」ことを通して人権感覚を磨き、人権意識を高めることが重要です。

また、自尊感情を高めることも人が生きていくうえで大切です。自尊感情とは、「自分は大切な存在である。」という安定した自信のようなものであり、ありのままの自分の価値を認める心とも言えます。

育つ過程で親や先生など周りの大人たちから尊重されることや認められることが少ないと、自尊感情が低くなってしまうことがあります。私たちは、生まれて初めて出会うのが親です。親から無償の愛を受けて子どもは、自信を持ち、生きる力のある大人へと成長するでしょう。

しかし、様々な事情で親が養育できない場合は、その子どもの成長の過程で、信頼できる大人との出会いが大切です。保護者の中には、思春期のわが子と向き合い、悩んでいる人もいるでしょう。一人で抱え込まないで、話を聞いてくれる人を見つけてください。周囲に悩んでいる人がいたら、声をかけてあげてください。保護者同士が支えあうことが子どもたちを支えることにつながります。

7月 令和4年度 教育予算要望

令和3年7月28日

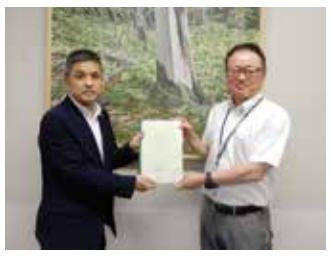
福岡市PTA協議会では、毎年福岡市教育委員会に対して、翌年度の教育予算に関する要望書を作成し提出しております。

今年度も市内小・中・特別支援学校より出た意見をもとに教育問題委員会にて討議し、理事会の承認を経て要望書を作成いたしました。

長年にわたって要望してきた「義務教育期間全学年での35人以下学級」は、コロナ禍での緊急対応ということではありますが、今年度実現できたことの1つです。

多くの問題を一度に解決するのは難しいのが現実ではありますが、毎年根気強く市へ要望し、可能な限り早い段階で実現できるよう、今後も働きかけてまいります。

今年度要望した内容の一部を紹介いたします。



岡村会長(左)と星子教育長(右)

1 35人以下学級に対応するため、教職員配置の定数拡充と学校教育環境の充実を！

担任以外の教職員を増やすことで、子どもたちによりきめ細かな対応ができますし、特別教室が増えることで授業がスムーズに行えるようになります。

2 児童・生徒が安心して学ぶため、学校教育環境整備の充実を！

かなり改装が進んで洋式トイレが増えてはいます。しかし、和式トイレを使ったことがない子どもたちが多く、トイレに不安を抱えています。そこで、洋式トイレへの改装を要望しています。

3 児童・生徒の安全確保のため、防犯設備の充実を！

防犯カメラの増設やセンサーライトを設置することで、今よりも子どもたちの安全を確保しやすくなります。

4 特別支援学級の児童・生徒へのより一層の配慮を！

専門知識を持った教職員が増え、支援学級の1クラスの定員が８人から６人になることで、1人1人にきめ細かな指導ができるようになります。

コラム

「変化の時代を生きる」

福岡市立名島小学校
校長　目野　佐和

変化が速く不確実、複雑で曖昧、しかも将来の予測が困難な時代の中、コロナ禍であることも相まって、様々な制約の中、子ども達は、制限されていた学習活動に、ようやく取り組むことができるようになってきました。

子どもたちの学習意欲の回復力は、素晴らしいものがあります。

学習に取り組む姿や運動したり、遊んでいたりする様子を見ても、友だちと協力しながら努力していることが感じられ，嬉しい限りです。

学習に対する意欲や体力が回復してくるとともに、挨拶や掃除にも、一生懸命に取り組んでいる姿が見られます。遠い先までの見通しを持つことが難しい時代を生き抜く子ども達だからこそ、自分のキャリアアップや自己実現のために自ら進んで学び、自分の興味関心があることから、一つ一つ丁寧に考えていく力を身につけていく必要があります。

未来を生きることになる子どもたちは、成長して学齢期を過ぎ、社会に出た後も、学びを続けていかなければなりません。

情報化が目まぐるしく進歩していく現在では、家電一つ動かすためにも、説明書を読み込み、分からないことは調べ、時には知っている人に聞き取るすべを知っていなくてはならない時があります。

つまり、大人になっても物事の学び方や自分が直面する課題の解決の仕方を知り、苦手な分野を自覚して克服したり、他の方法で代替えしたりすることを知っていないと、日々の生活を円滑に送ることもおぼつかなくなってしまうおそれがあるということです。

「変化の時代を生きる」ことを楽しみ、自分の力を伸ばし、こうありたいという自分の姿を求めて、日々、自分のための学びを続けて欲しいと願っています。

12月 令和3年度 福岡市PTA協議会 PTA啓発研修大会

令和3年12月9日　福岡市民会館

子どもとの付き合い方に活かせるモチベーション管理

［講師］秋山　幸二氏（元ソフトバンクホークス監督）
鬼橋美智子氏（ナビゲーター）

12月９日　福岡市民会館にて、ＰＴＡ啓発研修大会が開催されました。

現在、評論家としてご活躍の秋山氏は、選手時代からコーチ・監督での実体験に基づいたアドバイスをたくさん聞かせてくださいました。

コーチや監督として、選手たちを導いていくためにまずは「一人一人を良く知ることが大切」と教えてくれた秋山氏。好調・不調を見抜くことはもちろん、一人一人に合ったコミュニケーション方法で、タイミングを見計らって伝えることなど一人一人に合った対応に変えることが大切だと教えていただきました。もちろん子どもたちもそうで、理詰めで説明したほうが良かったり感覚で話したほうが良かったりとさまざまだと思います。私たちがその子にあった対応を見つけられるようにもっと子どもとのコミュニケーションに注力しないといけないなと思いました。

また、自分自身のモチベーションについては、到達すべき高い目標から、自分の現在地点までだんだん近づけていき、「今、明日のために何をするのか」という具体的行動にまで考えていくことで実際に行うことが明確化できると教えていただきました。私たちは、保護者という立場からの目標や自分自身としての目標などさまざまな目標を定めることができると思います。それぞれについて具体的行動を正確にこなすのは大変そうですが、「何もしない」や「なんとなく」ではなくて目標に向かって少しずつでも進んでいきたいと思いました。

子どものことや自分のことを客観的にみつめ、「困っていること」があれば観察して改善していく。言葉にすると当然のことのように聞こえますが、継続することは非常に困難だろうと思います。ですが、せっかくの限られた子育て期間ですので子どもや自分と向き合って「やり切った子育て」を実践したいと思います。

感染症対策として、一席あけて、チケット制の開催となりましたが混乱もなく無事に終了いたしました。企画運営を担った役員・研修委員・担副代表者の皆様本当にお疲れさまでした。子どもたちがプロスポーツ界のみなさんから、刺激をうけて元気にたくましく育ってほしいと思うとともに、私たち大人が子どもたちと向き合って健全な成長の手助けができるようになりたいと前向きになれた研修でした。

11月 令和3年度 福岡市PTA協議会主催 会長合同研修会

令和3年11月26日　西鉄グランドホテル

ライブ配信視聴者数：142名　12/7～28 オンデマンド配信視聴者数：1,371名

東福岡高校ラグビー部
監督　藤田雄一郎氏

本研修会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で2年ぶりの開催となりました。

まずＩＴ特別委員会から「PTAとは、ＩＴ導入について」と題する研修、さらに東福岡高等学校ラグビー部監督の藤田雄一郎氏の講演、題して「個を伸ばすリーダーシップ」をおこなっていただきました。

藤田雄一郎氏の講演は今後の社会を生きていく子どもたちの保護者である我々にとって、その一言一言が胸に突き刺さる内容であり、不透明かつ多様性が重要視されていく世の中においてPTAの役割の重さを考えさせられました。

最後の情報交換会は限られた時間の中でしたが、各テーブルで活発な意見交換が行われ、他区のPTAにおける取り組みを垣間見ることができました。

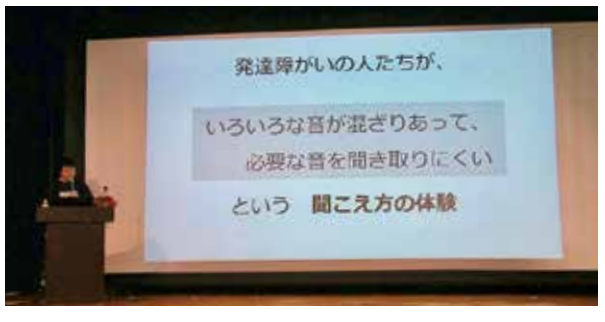
各校PTAでの会議、活動などが制限されている中、リアルに人と会って会話することの必要性と楽しさを再確認し、今後の各種活動のモチベーションアップとなりました。

12月 令和3年度 特別支援教育啓発研修会（12/1～12/8オンデマンド配信）

今年度の特別支援教育啓発研修会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、教育センターにて事前収録を行い、オンデマンドにて実施しました。

講師には、福岡市手をつなぐ育成会保護者会会長の下山いわ子氏をお迎えし、「擬似体験をとおして知ろう！」～知的障がい・発達障がいのある人たちとのかかわり方～という題名でご講演いただきました。

講演では、知的障がい・発達障がいのある人たちが、毎日の暮らしの中で、どのように物を見ているのか、どのように音を聞いているのか、どのように感じているのかということを、分かりやすい擬似体験を用いてお話をしていただきました。講演の中では９つの擬似体験がありましたが、その一部をご紹介します。

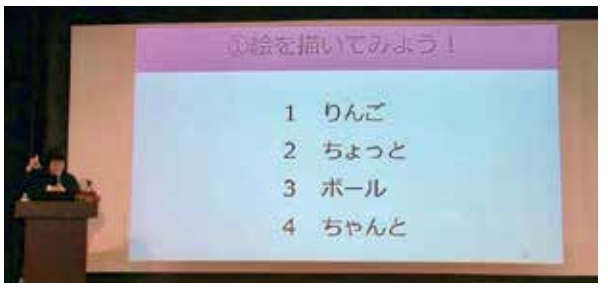


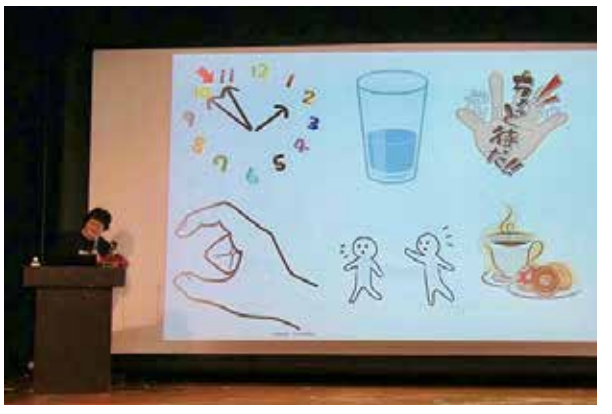
こちらは発達障がいのある人たちの聞こえ方を擬似体験しています。一度に３つのなぞなぞを同時に言われ、そのなぞなぞの答えを全て当てるという体験です。発達障がいのある人たちの中には、一度に様々な音が同時に同じ音量で聞こえる人たちがおり、必要な音が聞こえにくい感覚を擬似体験しています。

発達障がいのある人たちは、脳の特性によって、音がそのように聞こえてしまうということをご講演の中でお話されていらっしゃいました。

こちらはスライドにある文字を絵に描いてみるという擬似体験です。「ちょっと」や「ちゃんと」を絵に描くことが難しいように、知的障がい・発達障がいのある人たちの中には、「ちょっと」や「ちゃんと」という言葉のニュアンスでは理解が難しく、上手く対応できない人たちもおり、そのような指示では分かりにくいという感覚を擬似体験しています。

また人によって「ちょっと」や「ちゃんと」という言葉の捉え方も異なります。ご講演の中では、障がいのあるなしに関わらず、一つの物事に対して、人によって様々な考え方や見方があるということも、改めて知ることができました。





アンケートの結果では、「知的障がい・発達障がいのある人たちがどのように感じているのか知ることができた」「子どもたちに対してもこのような研修会をやってほしい」等、大変満足・満足したという意見が大変多く、障がいのある人たちと関わることの少ない方々に対しても啓発につながったのではないかと思います。特別支援教育啓発研修会を実施するにあたって、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

今回の講演会のDVDを学校やPTAなど(団体向け)に貸し出しを行っています。研修会などでご活用ください。

福岡市ＰＴＡ協議会　小・中学生総合保障制度のお知らせ　安心してお子さまをご養育いただくために

「小・中学生総合保障制度（こども総合保険）」

お子さまの「ケガ」「育英費用」やご家族の「個人賠償責任」などを補償します。

この制度の詳しい内容はこちらからも確認いただけます。
AIG 損害保険株式会社『お子さまのための総合保障制度』https://riskfinder.jp/school/

（学校内のケガの場合、「独立行政法人　日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度」の給付とは関係なく補償されます。）

※保障制度の詳細につきましては、取扱代理店にお問い合わせください。
●制度に関するお問合せ先：取扱代理店　株式会社コーリン（福岡市ＰＴＡ協議会保障制度事務局）
ＴＥＬ：０１２０－２２８－５５３（通話料無料）（受付時間：平日午前９時～午後５時　土・日・祝日、年末年始を除く）
●制度引受保険会社：ＡＩＧ損害保険株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 損害保険ジャパン株式会社 三井住友海上火災保険株式会社　Chubb損害保険株式会社

［令和３年度版：S-220246（2022-11）］

第69回 日本PTA全国研究大会北九州大会
第66回 日本PTA九州ブロック研究大会北九州大会

「じりつ、創造、尊重、調和、そして成長」～ひらこう未来のとびら・やっぱPTAっちゃ～

日　程：8月21日(土)
オンライン開催：北九州国際会議場

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりやむなく中止。今年度はコロナ禍の中で工夫を取り入れ、日本PTA全国研究大会としては初となるオンライン開催。

感染症対策を施しながら半日開催とし、表彰も映像で紹介。分科会は３つのテーマ会に置き換え、多彩なゲストや全国の先生や保護者を交え事前収録したVTR（地上波TVスタッフにて画面構成などを工夫）を作成。全体会では、西田二郎氏をファシリテーターに会場に7名の出演者を迎え、３つのテーマVTRを基に熱いトークが繰り広げられました。

会場ゲスト

つるの剛士氏	地元北九州市出身で5児の父
東川　勝哉氏	日本PTA全国協議会顧問
宮地　勘司氏	教育と探求者代表取締役社長
村上　綾野氏	NPO法人 HUG for ALL代表理事
齋藤　眞人氏	私立立花高等学校校長
川村　信孝氏	北九州市立子ども図書館館長
レモンさん（山本シュウ氏）ラジオDJ	合言葉は「We are シンセキ！」

テーマ1　子どもの生きる力を育む学校教育とは

文科省時代に２度の学習指導要領改訂に関わられた、現在内閣府で活躍中の「合田哲雄」氏。

障がいの有無にかかわらず「すべての子どもの学習権を保証する」という理念で学校運営をされている大阪市立大空小学校初代校長「木村泰子」氏。

「宿題」「定期テスト」「担任制」など学校のあらゆる当たり前を廃止した前・麹町中学校校長「工藤勇一」氏。

以上の３名のお話をベースにトークセッションが開催されました。

今の学校について、学校教育の目的とは、経験や実践をとおして見えてきたもの。持続可能な社会をつくるために教育がある。１人１人の子どもたちが、この世の中でより幸せに生きていくための力を養わせてあげること。最上位目的は全ての子どもの学習権を保障すること。

子どもたちの得意なものは何なのか、子どものノビを可視化して、社会に迎えるというサイクルが回り始めている。「誰１人取り残さない」学校教育についてのお話をベースに、会場ゲストからも共感の声が飛び交っていました。

テーマ2　子どもの生きる力を育む子育てとは

お笑い芸人EXIT、NPO法人CANVAS理事長「石戸奈々子」氏の対談では、コンプレックスをオリジナリティに変えることで自尊感情が高まった経験が聞かれ、会場ゲストからは個性を認めてくれる人との出会いが大切なこと、人生を主体的、前向きにとらえることができる発想の転換が必要で、当たり前にとらわれず、こうした方がいいと思うことを必要性を見ながら柔らかく変化していくことが自立した人間の育成、ひいては持続可能な社会（SDGs）をつくることにつながっていくなど、よりよく生きるためのキーワード、子育てに関するヒントがたくさん得られました。

テーマ3　令和新時代におけるPTA活動の可能性と未来像について

EXITからは、「PTAは先生と子どもをつなぐ卵だ、教育はハンバーグだ。」

出演者から「一人ひとりみんなが当事者」「子どもの数だけチャンスがある」「PTAは学びの場」「魂を輝かして生きる」「PTAのトランスフォーメーションが起きている」などのこれからのPTAの担う役割について語られました。

視聴した人からは、全体のお話の中で「当事者」という言葉が多く出てきた。自分の子どもたちのために、これだけの人たちが「当事者意識」を持って考え動いていただいていることに感動しました。私も当事者ということを忘れず、「共育」していきたいと思います。という感想も聞かれました。

最前線で活躍している先生方々によるテーマ別の討論会をダイジェストで公開

「ＩＣＴ化の悩みと利点」「"やる気"を生む教育とは」「"夢"を教える難しさ」「特別支援の"特別"とは」「変化の厳しい時代を子どもが生き抜くために」、最後は斉藤氏が参加した「特別支援の"特別"とは」の映像でした。レモンさんが語った「"特別"も"支援"もなくしていったらえぇ」「PTAは『おせっかい村』」という言葉でしめていただきました。

本来ならば会場には、全国各地からご参加いただいた方々の賛同の拍手が聞こえるところだったでしょう。今回は画面越しにそれぞれの場所で賛同の拍手をされた会員皆様の姿を想像しながら、北九州大会は盛会にて閉会となりました。

編集後記

今回の広報紙「ふよう」はいかがだったでしょうか。未だにＰＴＡの活動が制限され事業も計画通りにいきませんが、研修や講演も今年度はオンラインを活用しながら、開催することができました。

このように行動が制限され動きづらい現状でも、工夫して寄り添うことで笑顔あふれる家族や仲間と過ごすことができるものとの思いで、今回は一面に「家族ふれあいフォトコンテスト」の受賞作品を掲載いたしました。心温まる素晴らしい写真ばかりで読者のみなさんも自然と笑みがこぼれたのではないでしょうか。ＰＴＡの活動に関わる研修、講演やさまざまな事業の発信もとても大切ですが、今後も、家庭、学校、地域にあふれる笑顔を少しでもお届けし、読者の皆さんが少しでも微笑んでいただければ幸いです。（辻　宗志）

第76回 指定都市PTA情報交換会　広島大会

昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響で延期になっていた第76回指定都市PTA情報交換会が9月3日オンラインで行われました。今年度のテーマは『いじめ問題への取り組み』。事前に広島市PTA協議会の「いじめ防止大人サミット」の動画を視聴して参加しました。いじめを未然に防ぐには、「家庭が子どもにとって居心地のよい場所になっているか」「子どもとのコミュニケーションづくりが重要であること」など、教育の基盤である家庭や家族の大切さを再認識しました。学校ではいじめを未然に防ぐために、さまざまな取り組みをしていただいています。私たち保護者が目の前の子どもたちの声に耳を傾け、何気ない変化に気づく存在であるためにも、保護者自身の成長、教育力の向上は不可欠です。子どもを中心に据え、保護者・学校・地域の方々が相互に連携したPTA活動を目指していきたいと思います。

広報委員紹介

委員長
西　区　玄洋中　辻　宗志

副委員長
城南区　片江中　川畑亜貴人

第１３８号担当（12月・２月合併号）
早良区　小田部小　稲富　絵美
早良区　原中　柳本亜由美
中央区　警固中　諫山　隆史
博多区　博多中　茂末　岳
東　区　箱崎清松中　吉原　雅子
西　区　元岡小　森　幸太郎
城南区　金山小　大平　洋平
南　区　西花畑小　桂木　昌宏
博多区　那珂小　高田　陽子
東　区　照葉小中　仮屋　崇

第１３９号担当
南　区　高宮中　下津浦弘孝
中央区　福浜小　坂本　孔明
特別支援　東福岡特支　蓑田　泰史

校長
小学校　塩原小　森　春樹
中学校　吉塚中　瀧田　文隆

市Ｐ協役員
早良区　田隈中　波多江真一
東　区　多々良中央中　奥田　博子
東　区　香椎第2中　川添　浩美

福岡市教育センターへ　福岡市ＰＴＡ協議会事務局移転

福岡市ＰＴＡ協議会事務局は昭和52（1977）年から市庁舎北別館を事務事業や役員会、理事会、各委員会の会議の場として活用してきました。市庁舎北別館は、築44年が経過して老朽化しているため再開発で取り壊されます。移転先の福岡市教育センターは海風を感じる松に囲まれた閑静な場所にあります。

【事務局移転先】
福岡市教育センター２階
〒814-0006　福岡市早良区百道3丁目10番１号
電話：092-407-8010　FAX：092-407-8699
Email：pta-fuku@maple.ocn.ne.jp
URL：https://www.fukuokacity-pta.jp/

137号モニターアンケート

●コロナ禍の中、いろいろと工夫していることがわかりました。学びを止めないで　みんなで育とう！と元気をもらいました。

●活動が制限される中での制作、お疲れさまでした。役員関連の記事が多いと感じたので、会員保護者の興味を引くような記事が増えると良いと思いました。

●感染拡大防止のため、さまざまなＰＴＡ活動がオンライン化されるなど、新たな活動形態で行われていることが各面で報告されていましたが、ＰＴＡ活動をされていない保護者がオンラインなら自分にもできるかも！と思ってもらえるような発信をしてほしい。

三行詩のお知らせ

令和３年５月～６月に、文部科学省・公益社団法人日本PTA全国協議会主催で募集をしておりました「楽しい子育て全国キャンペーン～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～三行詩」の応募総数は、2,315作品でした。

（今回、福岡市からは、入選がありませんでした。たくさんのご応募ありがとうございました。）